

一般質問発言通告書

議席番号 2番

氏名 村木勝也

答弁を求める者

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

(○をつける)

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 浜田市における国土強靱化の取組について

(1) 公園等防災空間の確保について

- ① 都市公園等は、災害時における避難先、避難路あるいは救助活動の拠点として重要であるため、今後どのような整備をするのか伺う。
- ② 公園等において、設備の他に「訓練をする場となっている公園」の実態を伺う。

(2) 市街地等の浸水対策について

- ① 令和4年度から実施している「河川緊急浚渫事業」の効果を伺う。
- ② 令和6年度で終了とされている河川緊急浚渫事業は、要望は満たされたのか伺う。

(3) 矢原川ダムの早期運用開始について

- ① 令和4年度浜田市総合振興計画の進捗管理の「防災事業の推進」における「令和4年度主な取組と成果」において矢原川ダム事業は「着実に進んでいる。」と記載されているが、運用開始は未定である。現時点における状況を伺う。
- ② 着実に進んでいるので安心するものの、少しでも早く完成し、安全で安心した流域で生活するために、私たち住民ができることは何か伺う。

(4) 要配慮者等の対策について

- ① 令和4年度浜田市総合振興計画の進捗管理で「避難行動要支援者名簿」の提供を受ける地域の関係団体数の増加がA評価となっている。この評価に至る経過を伺う。
- ② 同計画の進捗管理で「今後の展開」において、「避難行動要支援者の個別避難計画の作成に繋げる。」とあるが名簿と計画策定との関係の現状を伺う。
- ③ 「個別避難計画」を作成するにあたり、市などの関係機関は、どのような支援をされるのか伺う。

2 令和8年度以降の中山間地域の活性化のための共通事業について

- ① 令和2年度末に地域振興基金及び農業振興基金から積み替えた「まちづくり振興基金」を取り崩しながら事業を行っている「中山間地域の活性化のための共通事業」は、令和8年度以降は、どのようなお考えか伺う。
- ② 今後の事業見直しに係るスケジュールを伺う。

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 17番

氏名 永見 利久

答弁を求める者 (○をつける) 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員
会委員長

発言項目及び要旨

1、防災対策について

3月定例会議の一般質問で、災害に強いまちづくりについて質問し、災害発生時の初動対策、避難所の物資確保、運営体制などについて伺った。

令和6年能登半島地震で、多くの学校が被災したものの大きな被害はなく、避難所として使用されており、改めて耐震化対策の重要性を感じたところである。

学校施設や公共施設の避難所でも、断水・停電の日々が続き、トイレ不足などが報道された。避難所生活に対する市の対応策について質問する。

(1) 避難所の支援対策について

- ① 浜田全域で、指定避難所は88カ所あると伺っている。その内指定避難所として使用される学校もあると思うが、避難期間が長くなった場合の市としての対応について考えを伺う。
- ② 上下水道の破損は、避難所の衛生状況にも影響が出る。生活用水の確保についての対策を伺う。
- ③ 同じくトイレについての対策について伺う。
- ④ 避難所が停電した場合の生活環境対策について伺う。
- ⑤ 平時での、食料品や生活用品等の災害備蓄品の管理状況について伺う。

2、過疎化対策と農地活用について

全国で、空き家が過去最多、900万戸を超える状況にあるとの報道もあった。浜田市中心地も、周辺部の中山間地域においても、空き家が増加している。併せて一人住まいの世帯も増加し町内会の運営にも支障を来している。人口減少で、後継者もない農家も多くなっており、後5年くらいでさらに急増すると、地域の方々の会話にもよ

く出てくる。浜田市においては、農業法人化を進め、農地維持に努めておられるが、その法人の中でも高齢化が進み運営の厳しい状況の組織もある。省力化が進み、若い人たちにも収入が期待できる、魅力ある農業にすることが、農業法人化、後継者の確保に繋がるのではとの思いで、以下の質問をする。

(1) 過疎対策について

- ① 令和4年から空き家調査をされているが、市内中心部、周辺部の中山間地域、それぞれの空き家の現状について伺う。
- ② 各地域の空き家対策について伺う。
- ③ 人口減少や高齢化は、集落の町内会の運営にも影響が出ているが、集落再生について、市としての考えを伺う。
- ④ 見守り移動販売支援事業は、高齢者世帯の買い物困難者の安定した日常生活の実現や安否確認を目的として取り組まれているが、その状況について伺う。
- ⑤ 今後のさらなる支援策について伺う。

(2) 農地活用について

施政方針では、中山間地域の農家の高齢化、担い手不足が顕著なため、将来にわたり地域農業を維持するために「地域計画」を策定し、集落ぐるみでの農業生産活動や農地保全の普及、将来的な担い手確保に取り組むとされている。

- ① 地域農業を維持するための「地域計画」の内容について伺う。
- ② 農業法人化を取り巻く状況は厳しいと伺っている。その対応策について伺う。
- ③ 農地維持活動の今後の支援策について伺う。
- ④ 農家の後継者対策についての市の考えを伺う。

令和 6 年 6 月 7 日
10時 34分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 11 番

氏名 小川 稔 宏

答弁を求める者 (○をつける) 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 教員の働き方改革における業務の負担軽減について

学校現場で働き方改革が進まない原因として7時間45分の勤務時間内では、業務が終わらない構造的な問題があると言われている。業務は増える一方でいろいろなものが現場に持ち込まれ過ぎで繁忙感があり、小学校の先生では出勤してから夕方までトイレに行く暇もないほど休憩がとれない現状もあると聞いている。一日当たりの平均休憩時間は12分余りで、小中学校では「0分」という回答が4割に上っているという調査もある。

小中学校や高校の教員の持ち帰り残業も含めた実質的な時間外労働の平均が、いわゆる「過労死ライン」とされる月80時間を超え、長時間労働が常態化している。

2021年度の病欠休職者数8,314人のうち5,897人が精神疾患によるものとなっている。

教員不足が慢性化し若手の早期退職も増加するブラックな働き方のなかで教員志望を途中で諦めてしまう人も少なくない。採用試験の受験者は減り、倍率は2014年度6.9倍から24年度3.0倍と10年で半減し教育の質の維持と教員確保が難しくなっている。

教員の犠牲の上に成り立っている日本の教育はあるべき姿ではない。

給特法の教職調整額を月給の4%から10%へ引き上げる方向で見直しが進められているが「定額働かせ放題」の枠組みのなかでは長時間労働の改善は難しい。給特法を廃止し、時間外勤務手当を支給することで問題点を可視化し業務削減を進める必要がある。

地方紙に「今の環境をどうにか変え、子どもたちに楽しそうに働いている姿を見せたい。」という30代女性教員の思いが綴られていたが、こうした気持ちを大切にしつつ業務の負担軽減を急ぐべきと考える。

(1) 教育現場の実態を踏まえた負担軽減策について

- ①休憩時間の明示について現場ではどのように対応されているか伺う。
- ②休憩時間が取れているか否かの判断はどのように行われているのか伺う。
- ③職員会議や研修会議等の開催時間の現状について伺う。
- ④14業務3分類について小中学校への周知状況について伺う。
- ⑤3分類に基づく業務の見直しについての進捗状況について伺う。

(2) 教員の健康管理について

- ①過労死ラインを超える長時間勤務がある場合の把握について伺う。
- ②その対策について伺う。
- ③医師の面談等の実施状況について伺う。
- ④心身の健康管理について伺う。

2 浜田市生活路線バス・石見交通路線バスの現状と課題について

石見交通バスの減便や路線廃止後の生活路線バスの利用しにくさは交通弱者にとっては移動の自由、職業選択の幅が狭くなるなど、生存権を脅かされる深刻な問題である。交通弱者の視点での検証と見直しが必要と考える。

(1) 浜田市生活路線バスの時刻変更の要望に対する対処について

- ①浜田市生活路線バス「有福線」江津方面行き5便、はまだお魚市場17:18発(市役所前17:27、浜田駅17:35)の運行時間では通勤に使用せず時刻を遅らせる「繰り下げ」を求める要望がある。市の対応について伺う。
- ②石見交通運行時に常連だった利用者が浜田市生活路線バス移行後は利用されていない現状もあるが、移行後の実態調査に対する考え方について伺う。
- ③移行後の見直しに対する考え方について伺う。

(2) 石見交通路線バス「長沢・瀬戸ヶ島線」の土日、祝日便の復活について

石見交通路線バス「長沢・瀬戸ヶ島線」が4月以降土日、祝日が運休となった。路線そのものの廃止でないためあまり問題視されていない面があるが、利用者にとっては切実な問題となっており復活を望む声が多くある。

- ①長沢・瀬戸ヶ島線の土日、祝日運転再開に関しての市の認識を伺う。
- ②こうした石見交通への要望等に対する市の対応状況について伺う。

(3) 運転手の待遇改善に効果のある補助金のあり方について

このまま慢性的な運転手不足が続く減便や路線廃止が相次げば、市民生活に支障をきたす深刻な事態が懸念される。従来補助金では歯止めになっていない現状を踏まえた抜本的な対策が必要である。

- ①運転手確保のための待遇改善を目的とした直接給付型の補助金を検討すべきと考えるが市としての所見を伺う。

3 JR西浜田駅の駅舎設備に関する問題について

こども基本法の基本理念第3条にこども施策に関して、3項には「自己に直接関係する全ての事項に関して意見を表明する機会及び多様な社会的活動に参画する機会が確保されること」、4項には「意見が尊重され、その最善の利益が優先して考慮されること」とある。直接的なこども施策ではないものの浜田商業高校生の多くが利用する公共施設であることには違いないという趣旨から質問する。

(1) 駅舎設備に関する JR と自治体との認識について

- ① JR 西浜田駅駅舎建替えとトイレの設置に関しての経過について伺う。
- ② JR と自治体の経費負担も含め認識について伺う。
- ③ 西浜田駅舎建替えにおいて、生徒等の意見反映ができる何らかの機会があったのか伺う。
- ④ トイレ撤去とその後の対応において、生徒等の意見反映ができる何らかの機会があったのか伺う。
- ⑤ 雨風がしのげないような環境は、人権にかかわる問題であり「こどもの最善の利益」と言い難い現状にある。原因について伺う。
- ⑥ こうした事態に至った問題点について伺う。

発言No. 14

受付No. 13
令和 6年 6月 7日
9時 7分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 20 番 氏名 西田清久

答弁を求める者 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
(○をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 夏場対策について

(1) 公共施設の利活用について

- ① 熱中症のリスクが高まる夏場において、各地の自治体では冷房設備を備えた「クーリングシェルター」確保の動きが増えている。浜田市に於いても市役所、支所、各まちづくりセンターなど市民の一時的休息所としての「まちなかオアシス」を開設する考えがないか問う。

(2) 夏休み中の学童保育について

- ① 学童保育など夏休み期間は児童が増えている。合同体験などで移動する機会も多くなると思うが、移動手段にスクールバスなどの増便が可能かどうか問う。

(3) 夏場対策緊急予算枠の創設について

- ① 近年の夏場の気候は尋常でない。子どもたちの遊びや高齢者の集いにしてもリスクは避けられず、通常予算枠で対応できない緊急措置として夏場対策緊急予算枠を創設する考えがないか所見を問う。

2 浜田市の新たな財源確保策について

(1) 自主財源について

- ① 近年、中期財政計画の歳入は、中国電力の大型償却資産の影響による地方税の増や毎年10億円以上のふるさと寄附のおかげで一定の水準を維持しているが、人口減少や社会、経済変動の激しい中で、市の20年後の歳入の想定について問う。
- ② 将来の浜田市の自主財源確保策について、中心となる産業があると思うが、どのような方向性に可能性を見出そうとされるのか所見を問う。
- ③ 近年、全国各地で地域の環境や資源を活用したソフトビジネス、スモールビジネスが生まれている。浜田市においても個性と魅力あるビジネス創出のチャンスが十分あると考える。取組への仕掛けが必要と考えるが支援体制はどうあるべきか、市としての考えを問う。

発言 NO

15

受付 NO 18

令和6年 6月 7日

10時45分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 12 番

氏名 上野 茂

答弁を求める者
(○をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員地域地

発言項目及び要旨

1. 市民の困りごとについて

地域井戸端会で最も多く出た意見を踏まえて質問する。

(1) 増加する耕作放棄地について

- ① 耕作放棄地は年々増えていると思うが現状を伺う。
- ② 農家の担い手対策をどのように考えているのか伺う。
- ③ 経費（肥料・燃料など）の高騰への支援を伺う。
- ④ 低い米価への対策を伺う。
- ⑤ 農地を守るための支援を伺う。
- ⑥ 農家を減らさない取組を将来的にどう考えているかを伺う。

(2) 交通不便地域対策について

- ① 「バス停まで歩いていけない」、「敬老乗車券もすぐなくなる」といった声が今後ますます増えると思うが対策を伺う。
- ② 金融機関は ATM しかなく、窓口は中心市街に行かなければならない。このままでは地域は減退してしまうが対応を伺う。

(3) 介護現場における課題について

- ① 介護業界では2025年に全国で22万人の職員が不足するといわれている。浜田市においても人材不足が慢性的に続いていると思うが現状を伺う。
- ② 人材確保対策について市の考えを伺う。
- ③ 昨年度の介護報酬の浜田圏外に流出した金額について伺う。
- ④ 圏外流出対策について市の考えを伺う。